

# 和地ひとみレポート No.219

東京2020オリンピック・パラリンピック教育もスタート

## “グローバル化”への対応の東大和市の現状は



### ■オリンピック・パラリンピック教育

…2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向けて、様々な事業が東京都内で本格的なスタートを切っています。先日の東大和市産業まつりには「オリンピック・パラリンピック・フラッグツアー」も訪れ、多くの市民、そして小学生たちもそのセレモニーに参加していました。2020東京大会については、競技会場などの問題ばかりが報道されているため、大会に向けての機運の上昇をあまり感じられない状況ですが、フラッグツアーのセレモニーに参加された多くの方、そして特に子ども達の様子からは、オリンピックへの期待、そしてワクワク感が伝わってきました。

…オリンピックを身近に体験するというには、様々な効果が期待できます。特に、これからの世界、日本、そして東大和市を担う子ども達にとっては貴重な学習機会として2020東京大会を活かしてもらいたいと思います。

…このようなことは、東京都教育委員会も考えており、2020東京大会を子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、都内の都内全ての公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校を対象として「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を実施しています。

### 【東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針の概要】

■期間：2016年度から2020年度までの5年間

#### ■重点的に育成する5つの資質

- ①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向  
④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな国際感覚

#### ■4つのプロジェクトの推進

- 東京ユースボランティア ○ スマイルプロジェクト  
○ 夢・未来プロジェクト ○ 世界ともだちプロジェクト

#### ■東京都教育委員会が実施する支援策

- 全校に30万円/校、重点校には+20万円/校を補助  
○ 学習読本や映像教材の作成・配布  
○ 教員向けの指導書、実践事例集などの作成・配布  
○ オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、価値について学ぶ教員研修を更に充実  
○ 各学校の取組をサポートするウェブサイトを構築  
○ 学校を支援するためのコーディネート機能を構築

### ■東大和市の学校では

…東大和市の全小学校、中学校でも、東京都教育委員会の補助金を活用し、このオリンピック・パラリンピック教育内容を各校が計画、実施しています。

(第6小学校は重点校となったため、都教育委員会からの補助金は50万円)。

…例えば、第5中学校では生徒60人がリオ・オリンピック

日本選手団応援イベントに参加。そのほかの学校でも車いすバスケットの体験、アスリートの講演を聞く、オリンピックの歴史を調べる、外国の文化を調べるなど様々な授業を企画しています。

…また、左記の都教育委員会が推進する4つのプロジェクトの中の『世界ともだちプロジェクト』についても各校で実施。

…この『世界ともだちプロジェクト』は、1998年長野大会と2012年ロンドン大会で実施された「一校一国運動」を参考にしたもので、2020年東京大会でも、都内の学校が広く参加国を応援したり、交流したりするという取り組みです。東大和市の小中学校にも様々な国と地域担当国として割り振られています。

### 【都教育委員会による”世界ともだちプロジェクト”の説明】

- ◆ これまで各学校で行ってきた国際理解教育や国際交流活動を充実・拡大
- ◆ 調べ学習等で多様な国々を幅広く学習し、可能な限り、実際の交流へと深化させていく活動を推進
- ◆ こうした活動を通し、豊かな国際感覚を醸成するとともに、日本人としての自覚と誇りを涵養(かんよう:無理のないようにだんだんと養成すること)

#### ～取組の例～

- ⇒ 留学生や大使館等との交流
- ⇒ 海外の学校との手紙やメールの交換等の間接交流
- ⇒ 海外の学校の児童・生徒との相互交流

### ■気になることは・・・

…各校、限られた予算の中で、様々な教育内容を工夫しているようですが、その内容を見ていて気になるのが『重点的に育成する5つの資質』の“豊かな国際感覚”に関連する取り組みです。そのほかの重点資質についての実施計画は具体的にイメージできる内容が多い中、この点については、今一つ具体的な内容がイメージできません。都教育委員会のオリンピック・パラリンピック教育の「意義」の中では『これからの時代を生きる子どもたちは、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と協力・協働しながら課題を解決する力が求められ、また、多くの外国人と交流する機会が増えていく中、臆せず積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、日本人としてのアイデンティティをしっかりと持ち、豊かな国際感覚を醸成する必要がある』とし、一方、近年の日本の若者の内向き志向の実態が課題にあげられています。そこで、都教育委員会は、この目標と現実とのギャップはイコール初等中等教育の大きな課題の一つであるとし、2020オリンピック・パラリンピックを好機として特別な教育を実施することとしたようです。

(裏面につづく)

…この課題は、一朝一夕には解決しませんが、好奇心が旺盛な子ども達にとっては何が“きっかけ”“になるかわかりません。東大和市においても、様々な“きっかけ”となる授業を実施することで、この課題解決に力を入れてもらいたいと思います。

## ■国際化の中で各自治体は

…海外からの旅行者等の訪日人数が増加している中、各自治体でも国際化に対応する動きが活発化しています。自治体が行う国際化の取り組みの代表的なものとしては「海外都市との国際交流＝友好都市関係の締結」があります。東大和市には現在、海外都市との友好都市関係はありませんが、日本全国を見渡すと、下記のとおり増加の一途をたどっています。

### 【友好都市提携＝姉妹都市提携自治体件数】

※平成28年3月31日現在

※提携件数には、複数の自治体による合同提携4件を含む。

平成1年…768自治体 ⇒ 平成27年…1692自治体  
(例えば、隣の東村山市は中国蘇州市と友好都市交流、米国インデペンデンス市と姉妹都市関係を締結)

…東大和市の各年度予算にも毎年「国際交流」の予算が計上されていますが、これは市内に住む外国の方に対する役所などでの通訳料が主なもので、一般にイメージする文化交流、児童、生徒の交換留学などの予算ではありません。

…一方、昨年度から東大和市、国分寺市、昭島市3市合同で行っている中学生を対象とした「アメリカン・サマーキャンプ」の効果は市の教育委員会も認めているところ。その効果は英語力向上ということより、積極性の向上、自分の考えを伝えるコミュニケーション能力の向上等とのことで、語学以上に様々な効果があるようです。今回のオリンピック・パラリンピックの『世界ともだちプロジェクト』の取り組み例に示されたような直接的・間接的な「人と人との国際交流」にもこのような効果が期待できますが、東大和市で実現するには海外に友好都市のある自治体や自治体内に大使館のある東京の中心に位置する区よりも工夫が必要になると思います。

## ■市民による国際交流

…市内には、国際交流を進めている市民グループがいくつかあります。私自身も多くの市民の皆様とともに“東大和市の国際交流を考える会”の一員としてドイツのフランクフルトのベッドタウン Oberursel 市（オーバーウルゼル市）との交流活動を2012年から続けています。この交流は、当時の在 フランクフルト日本国総領事 重枝豊英氏とのご縁でスタート。現在では、この交流に共感いただいた二小と五小が現地の小学校と手紙や写真、作品などを交換し、互いの文化を伝えあう交流をしています。また、2014年11月には東大和市内のコーラスメンバーの有志が現地を訪れ、『オーバーウルゼル市のゲ

ルマニア合唱団』と現地教会でのクリスマスコンサートを開催。このコンサートにはオーバーウルゼル市長、日本国総領事もお迎えでき、国際交流の意義についてのお話をいただきました。こうした市民同士の“顔と顔を合わせた交流”が実現したことにより、互いの信頼関係も構築され、来年の4月には、オーバーウルゼル市の市民合唱団、そしてオーバーウルゼル市長ご夫妻をはじめとしたオーバーウルゼル市関係者、70名弱が東大和市を訪れ、ハミングホールで国際交流コンサートを開催することになりました。この訪問の際には、現地の小学校と交流している二小と五小にも訪問いただき、児童たちとの交流の時間を設けることになっています。『世界ともだちプロジェクト』では二小も五小も“ドイツ”を担当しているので、学習にも役立てていただけると期待しています。

…この Oberursel 市との交流活動は市も認識し、応援してくれていますが（経済的な応援ではなく気持ちのうえで）、市はまだ、公式に海外都市との友好関係を締結するという考えには至っていないようです。

## ■これからの国際交流の可能性

…先に述べた海外都市と友好都市関係を締結している自治体の中には“市民の交流から公式な関係に発展した”例が多くあります。また、もし行政主導で友好都市関係を締結しても、市民が交流の主体にならなければ意味のないものになってしまうとも思います。

…現在、行政が行う海外都市との交流に求められていることは変化しています。もちろん子ども達や文化の交流で得られる経験は貴重なことになり、そのまちに『住んでいるからこそ』の体験となりますが、現在は、国際交流によって互いに活性化、発展することが必要とされています。代表的なこととしては経済的な交流がありますが、その他にも人材育成、海外から見た自国、自分たちの町の魅力の発見、そして、海外に日本、自分のまちを伝えるために「自分を知る」ということから生まれる可能性も大きいと言われてしています。

…例えば、日本茶の輸出量を見るとアメリカ、台湾に続きドイツは第3位。これは東大和市のお茶の販売につながるかもしれません。また、最近各地で催され話題となっているドイツ発祥のお祭りの“オクトーバーフェスト（ビールのお祭り）”や“クリスマスマーケット”を本場から伝授されたテイストを入れて東大和市中で開催するといったことも、市の活性化、知名度アップにつながるかもしれません。

…現在、私はドイツの都市との交流を行っているため、ドイツとの可能性を例としましたが、ドイツに限らず、外に目を向けることも東大和市の活性化には必要。来年4月にオーバーウルゼルの市長が訪れた際には尾崎市長にもこれからの国際交流の可能性について、意見交換を行っていただきたいと思っています。

### 市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

## 「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思っています。」

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となり、月刊誌『日経 WOMAN』でのベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中



東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102